



■最近の話題

あおもりの農林水産業を体感するバスツアーが開催されました

令和2年10月30日、一般県民を対象とした「あおもりの農林水産業を体感するバスツアー」が環境公共学会主催で開催され、県内在住の13名が参加しました。

本バスツアーは、本県の農林水産業を支える基盤整備の取組を紹介し、併せて「環境公共」のPRを目的としており、今回初めて環境公共学会が主催することで、これまでの「農」主体から、「農」「林」「水」の各分野の取組を幅広く紹介することができました。

また、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、検温、マスク着用、手指の消毒、座席分散の形で行われました。

午前は、ほ場整備事業を実施中の土場川地区（東北町）とほ場整備事業が完了した北三沢地区・八幡地区（三沢市）を見学し、ほ場整備の重要性や地域農業の保全と環境との共存、水環境の保全などの取組について学んでいました。

次に、三沢市内の畑にて、生産量日本一を誇る「ごぼう」の収穫体験が行われ、参加者は初めてのごぼう収穫を楽しんでいる様子でした。

昼食後は、三沢市内の漁民研修センターにて、東日本大震災から復興した三沢漁港の災害に強い漁港づくりの取組と三沢市漁業協同組合の水産振興に係る取組を、その後、震災の津波で被災した三沢～おいらせ海岸防災林の復旧の取組と三沢市営牧場での公共牧場を活用した地域ぐるみの肉用牛・乳用牛の増産の取組について学びました。

最後に、アンケートの結果から、今回のバスツアーを通して普段なかなか行けない施設に“行ける・見られる”といった点や収穫体験が印象に残っている方が多かったようです。さらに、環境公共に対する県などの取組を知ることができ、全く触れることがなかった知識に触れて新鮮だったという声もありました。

今後もこのような活動を通して、環境公共の取組などを発信していきたいと考えています。



土場川地区の説明の様子



ごぼう収穫体験



三沢市営牧場の説明の様子



参加者集合写真

■「環境公共」事例紹介

庄司川上堰幹線用水路におけるホタル水路(環境配慮型水路)

1 地区の概要

平川市にあり、1級河川平川を水源とする庄司川上堰幹線用水路は、同市西部の水田 522ha に農業用水を供給するために整備された水路です。整備から 40 年以上経過しており、積みブロックで整備された本水路の至る所でブロックの傾倒や抜け落ちが発生していました。

このような状態であったことから、ブロック積みの中にU字型の水路を入れることによって、本水路を改修することとしました。

また、同市の石郷地区周辺では水路内にホタルが生息していることから、地区住民の方々と検討を行い、ホタルの生息に配慮した水路改修を行いました。

2 取組内容

本水路では、ホタルの幼虫がサナギになるために水路の直壁を上がってこられるよう、水路の側壁に凹凸を設けるとともに、ホタルの餌となるカワニナが生息できる環境を保全するため、水路底に自然石を配置し、その隙間に旧水路内にあった土砂を敷き詰め、水生植物の繁茂を促す構造としました。

旧水路内からの土砂の移動は、庄司川上堰地区環境公共推進協議会と石郷地区の住民が協力して行いました。土砂を移動する際に、カワニナの生息が確認されたことから、カワニナも土砂と一緒に移動させました。

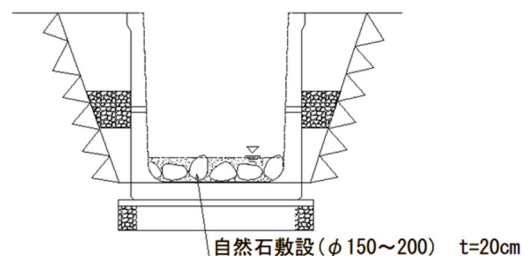
3 ホタルの観察会

環境公共推進協議会では、平成 27 年から環境公共の取組の一環として、ホタルの観察会を開催しています。水路改修後の平成 30 年、令和元年も観察会が行われ、夜空に舞うホタルを観察することができました。

なお、令和 2 年は新型コロナウイルスの影響により、残念ながら中止となりました。

4 今後の取組

石郷地区では、石郷みどり会が平成 28 年度の「農村を彩る花壇コンテスト」で最優秀賞を受賞するなど、環境保全に積極的な地区です。本水路は、ホタルの生息場所として地区住民の貴重な財産となっており、今後も、環境公共推進協議会と住民が協力して、ホタルの生息環境の保全を行う予定としています。



ホタルの生態に配慮した水路の断面



旧水路の土砂内で確認されたカワニナ



ホタル観察会 (令和元年 6 月 28 日)